

応用練習問題 4

<解答>

		<u>損益計算書</u>	
I	売上高		(1,090,000)
II	売上原価		
	1. 期首製品棚卸高	(32,500)	
	2. 当期製品製造原価	<u>(679,320)</u>	
	合計	(711,820)	
	3. 期末製品棚卸高	<u>(56,610)</u>	(655,210)
III	半製品売上原価		<u>(40,000)</u>
	売上総利益		(394,790)
			(以下省略)

【解説】

仕損費の処理、仕損評価額の控除、半製品の取り扱いを含む工程別総合原価計算の総合的な問題である。3つの論点が融合されていて、第1工程と第2工程のそれぞれで仕損が発生しているため一見すると難易度は高く見えるが、個々の論点の処理を正確に行っていけば正解にたどり着ける。なお、最終的な解答方法が損益計算書の作成となっていて、総合原価計算の問題ではあまり一般的ではない解答方式ため、損益計算書作成段階でケアレスミスをしないように十分に注意する。

①第1工程（平均法）

加工進捗度40%で仕損が発生し、期末仕掛品の加工進捗度が60%であるから、仕損費は完成品と月末仕掛品の両者負担となる。また、仕損品評価額4,550円は材料費から控除するように指示があるため、ワークシートに記入する材料費は $339,550 - 4,550 = 335,000$ 円となる。したがって、ワークシートは次のようになる。

	材料費			加工費		
月初	250	68,200		100	11,720	
当月	1,350	335,000		1,380	207,320	
合計	1,600	403,200	@252	1,480	219,040	@148
月末	300	75,600		180	26,640	
完成	1,300	327,600		1,300	192,400	

第1工程完成品原価： $327,600 + 192,400 = 520,000$ 円（@400円）

ここで、第1工程完成品1,300個のうち100個は半製品として外部に販売されて、1,200個が第2工程の前工程費となる。したがって、次のようになる。

- ・半製品：@400円×100個=40,000円
- ・第2工程の前工程費：@400円×1,200個=480,000円

②第2工程（平均法）

加工進捗度75%で仕損が発生し、期末仕掛品の加工進捗度が50%であるから、仕損費は完成品のみ負担となる。したがって、ワークシートは次のようになる。

	前工程費			加工費		
月初	100	39,350		20	4,480	
当月	1,200	480,000		1,180	257,120	
合計	1,300	519,350	@399.5	1,200	261,600	@218
月末	180	71,910		90	19,620	
※完成	1,120	447,440		1,110	241,980	

※完成品負担なので「完成」欄には仕損品数量を含むことに注意する。

前工程費：完成品数量1,080個+仕損品数量40個=1,120個

加工費：完成品数量1,080個+仕損品完成品換算量30個=1,110個

なお、ミスを防ぐためにワークシートの「完成」欄を「完成+仕損」とあらかじめ書いてもよい。

第2工程完成品原価：447,440+241,980-10,100（仕損品）評価額=679,320円

第2工程完成品単価：679,320÷1,080=@629円

③損益計算書の作成

④売上高

資料3とワークシートより当期の販売数量を計算すると、

50個（期首製品）+1,080個（当期完成）-90個（期末製品）=1,040個

したがって、半製品の売上高も売上高に含めることになるから、P/Lの売上高は次のようになる。

1,040個×@1,000円+100個×@400円=1,090,000円

⑤期首製品棚卸高

50個×@650=32,500円

㉔当期製造原価

第2工程完成品原価 679,320 円が入る

㉕期末製品棚卸高

資料3より期末製品棚卸数量が90個であり、製品の払出単価は先入先出法で計算するとあるから、期末製品棚卸高はすべて当期に製造に着手して完成した製品（完成品単価原価@629円）から発生している。したがって、期末製品棚卸高は

$90 \text{ 個} \times @629 = 56,610 \text{ 円}$

㉖半製品売上原価

$100 \text{ 個} \times @400 \text{ 円} = 40,000 \text{ 円}$